

Press Release

2022年4月25日

東京大学とアステラス製薬 革新的な新薬や医療ソリューションの創出を目指し 戦略的パートナーシップ第2期を開始

国立大学法人 東京大学(所在地:東京都文京区、総長:藤井 輝夫、以下「東京大学」と)とアステラス製薬株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 CEO:安川 健司、以下「アステラス製薬」)は、革新的な新薬や医療ソリューションの創出を目指し連携協力する戦略的パートナーシップ(Astellas Alliance Acceleration Program: AAAP)第2期を、本日4月25日より始動させます。

東京大学とアステラス製薬は、2020年9月から2022年3月をAAAP第1期として、東京大学内のライフサイエンス連携研究教育拠点およびセンター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会拠点」を拠点に、連携協力体制を構築してきました。この連携により、これら2拠点に所属する医学・薬学分野を中心とする研究者とアステラス製薬の創薬研究者らが、自由闊達な議論ができる環境が整えられ、複数の共同研究を生み出してまいりました。

本日からは始動する第2期では、上記2拠点から全学に連携対象を拡大し、共同研究探索ならびに計画立案に携わる専属のプロジェクトマネージャーを東京大学内に配置します。この発展的取組みによって、東京大学における最先端の科学研究力と、アステラス製薬の創薬に関する知見がさらに深く融合し、研究プロジェクトが創出される仕組みの拡大・強化につながることを期待されます。

東京大学のAAAP運営委員会メンバーである薬学系研究科・教授 一條 秀憲は「AAAP第1期の経験を踏まえて全学に拡大した第2期の契約締結を嬉しく思います。東京大学の生命科学研究の強みを、これまで以上に生かし、画期的な創薬研究につなげられることを期待しています」と述べています。また、同じくAAAP運営委員会メンバーである工学系研究科/医学系研究科・教授 鄭 雄一は「AAAP第2期のさらなる活動に期待しています。第2期では東京大学のスケールメリットを生かし、例えば工学系と生命科学系といった異分野融合にもより一層注力したいと考えています」と述べています。

アステラス製薬の専務担当役員 研究担当の志鷹 義嗣は、「このたびの、AAP 第 2 期の契約締結を嬉しく思います。第 1 期以上に、より広範囲かつ密な連携を取ることで共創がさらに進み、創薬研究初期から臨床までの幅広い段階に資するイノベーション創出が、一層加速することを期待しています」と述べています。

東京大学は、社会との対話と共感を通じて新たな価値創造を推進することで、人類社会の課題解決と産業発展に資する活動をおこなっています。アステラス製薬は、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」という経営理念のもと、科学の進歩を患者さんの価値に変えるための革新的な医療ソリューション創出に取り組んでいます。東京大学とアステラス製薬は、相互にビジョンと課題を共有して連携を強化、イノベーションを推進してまいります。

以上

国立大学法人 東京大学について

1877 年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、15 の学部・研究科と 11 の附置研究所を有する教育研究機関です。現・藤井 輝夫総長により 2021 年 9 月 30 日に公表された基本方針「UTokyo Compass～多様性の海へ：対話が創造する未来(Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue)～」のもと、様々なステークホルダーと協調して社会課題を解決していくことをめざしています。詳細については(<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>)をご覧ください。

アステラス製薬株式会社について

アステラス製薬は、世界 70 カ国以上で事業活動を展開している製薬企業です。最先端のバイオロジーやモダリティ/テクノロジーの組み合わせを駆使し、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する革新的な医薬品の創出に取り組んでいます(Focus Area アプローチ)。さらに、医療用医薬品(Rx)事業で培った強みをベースに、最先端の医療技術と異分野のパートナーの技術を融合した製品やサービス(Rx+®)の創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの価値に変えていきます。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

注意事項(アステラス製薬)

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

お問い合わせ先:

アステラス製薬株式会社
コーポレート・アドボカシー&リレーション部
03-3244-3201

国立大学法人東京大学
産学協創推進本部
info@ducr.u-tokyo.ac.jp